

スダジイ堅果を採集，神奈川県平塚市で室内飼育。
2 exs., VIII. 2015, 羽脱。

クリシゴゾウムシ *Curculio sikkimensis* (Heller, 1927) ※
2 exs., 美津島町上見坂, 28. IX. 2014, N; 美津島
町上見坂, 28. IX. 2014, N, アカガシ堅果を採集。神
奈川県平塚市で室内飼育。2 exs., 8. IX. 2015, 羽
脱; 1 ex., 巖原町宮谷, 13. IX. 2015, S. Matsuo leg.;
2 exs., 豊玉町烏帽子岳, 22. IX. 2015, S. Matsuo leg.
; 1 ex., 上県町佐護・御岳口, 16. IX. 2001, S; 1 ex.,
上県町佐護・仁田の内, 25. IX. 1999, F; 1 ex., 上県
町佐護, 14. IX. 2001, S.

仁田の内では，自動販売機の灯火に来ていた個
体を採集した。

末筆になったが，標本を恵与いただいた大林延
夫，酒井雅博，吉富博之，松尾進の各氏，標本写
真を撮影いただいた久米加寿徳氏に厚くお礼申し
上げる。

引用文献

- Morimoto, K., 1981. On some Japanese Curculioninae (Coleoptera: Curculionidae). *Esakia*, (17): 109–130.
野津 裕, 1977. 対馬のゾウムシ. 四国虫報, (22): 118–119.
野津 裕, 1983. シギゾウムシの生態. すかしぼ, (20): 21–23.
Notsu Y., 1987. Two new species of the subfamily Curculioninae from Japan (Coleoptera: Curculionidae). *Transactions of the Shikoku Entomological Society*, 18 (3, 4): 277–282.
Notsu Y., 2015. Two new species of the genus *Archarius* from India and Laos, with systematic note on the subtribe Archariina (Coleoptera: Curculionidae). *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 21 (1): 177–182.
白水 隆, 1980. 「対馬の生物」以降における対馬昆虫相の知見の進展. 月刊むし, (117): 65–88.
白水 隆・宮田 彬, 1976. 対馬産昆虫類目録. 対馬の生物: 567–764.

- (藤本博文 760-0005 高松市宮脇町 1-17-4)
(野津 裕 259-1211 平塚市ふじみ野 1-33-14)
(島村 聡 014-0022 大仙市大花町 11-11-B)

【短報】対馬におけるマルチビガムシの記録

マルチビガムシ
Pelthydrus japonicus

M. Satô, 1960 は，本
州，四国の清流に生
息する日本固有種で
ある（佐藤，1985）。
環境省のレッドリス
トには挙げられてい
ないものの，全国的
に記録の少ない種で
あることが指摘され
ている（森本・中島，
2011；上手，2016）。



図1. 対馬産マルチビガムシ。

本種はこれまで九州
地域からの記録が無
かったが，筆者は，
対馬で本種と思われ
る個体を採集したの
で記録する。

2 ♀，長崎県対馬市美津島町洲藻，10. VII. 2018，
上手雄貴採集・保管（図1）。

採集した環境は，周辺が樹林で覆われた河川の，
岸辺から離れた流れの早い場所（図2）でヒメドロ
ムシ科を採集中に得られた。2頭同時に採集できた
が，その後は得られなかった。また，森本・中島
（2011）では，採集例の2例がそれぞれ違った環境
から得られているため，岸際周辺や植物の根際な
ど違う環境も探してみたが，追加個体は得られな
かった。

採集直後には，かなりの水圧を受けたからか，2
頭とも脚を伸ばした状態で動かなかったが，タッ
パーに入れてしばらくしてから動き出す姿が確認
できた。擬死していた可能性もあり，非常に興味
深い行動であった。

今回得られた個体は，2頭ともメスであったが，
和歌山県産，滋賀県産のマルチビガムシと比較し
て本種と同定した。ただ，朝鮮半島から本種の記



図2. 生息環境。

録が無いことから、近似の別種の可能性もあるの
で、今後はオスによる同定が必要である。

末筆ながら、マルチビガムシの情報や和歌山県
産、滋賀県産標本の借用でお世話になり、本稿を
ご校閲いただいた福岡県保健環境研究所の中島淳
博士および調査の補助を務めていただいた妻の奈
美に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 上手雄貴, 2016. 失われゆく流水性甲虫類. 昆虫と自然, 51 (7):
15-19.
森本静子・中島 淳, 2011. 近畿地方におけるマルチビガムシ
の採集記録 2 例. 月刊むし, (482): 43-44.
佐藤正孝, 1985. ガムシ科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝(編),
原色日本甲虫図鑑 II, pp. 208-217. 保育社.

(上手雄貴 467-8615 名古屋市瑞穂区萩山町 1-11
名古屋市衛生研究所)

【短報】 放置されたペットボトルトラップ内に残っ たマルコガタノゲンゴロウなど水生甲虫類の死骸

東北地方において種の保存法指定種マルコガタ
ノゲンゴロウの生息調査(捕獲等許可番号: 環東地
野許第 1609201 号)を実施した際、何者かが放置し
たペットボトルトラップを回収し、中に残存した
水生甲虫類の死骸を調査したので報告する。なお、
種の保存法指定種を含む希少な水生甲虫類の記録
について地名を公表することは保全対策上好まし
くないので、本報では地名を「東北地方」に留め
ることにした。

2016 年 9 月 25 日午前、東北地方のため池に隣
接する休耕田の陸上で放置されたペットボトルト
ラップを発見した(図 1)。本体は 500 ml 炭酸飲料
用のボトルであり、昆虫関連 Web ページや書籍に
ある標準的な方法(野村, 2018)で作製されていた。



図 1. 放置されたペットボトルトラップ。

発見したトラップは、じょうご状の部分とボトル
本体を結び付けた加工の丁寧さから、大人が作製
したのではないかと考えている。

水中には他のトラップが仕掛け続けられている
可能性もあるため、タモ網で水底をさうように
探ったものの、他の放置物は確認出来なかった。
その際マルコガタノゲンゴロウを混獲する恐れも
あったが、前述の通り捕獲等許可を得ているので
問題なかった。

筆者は、トラップをポリ袋に入れて持ち帰り、
後日自宅にてトラップを分解し、内部に残存した
腐敗臭を放つ水生甲虫類死骸のバラバラになった
部位を組み合わせつつ(図 2)、種類と個体数を調
査した。その際小石 2 個も発見したがトラップの
重しか、偶然トラップ入口から入ったものかは定
かではなかった。

- [調査結果] 放置トラップ内の残存物
マルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus* (Sharp)
6 exs.
ゲンゴロウ *Cybister chinensis* (Motschulsky)
1 ex., 2 令幼虫 2 exs.
クロゲンゴロウ *Cybister brevis* (Aube)
14 exs.
コシマゲンゴロウ *Hydaticus grammicus* (Clark)
92 exs.
ヒメゲンゴロウ *Rhantus pulverosus* (Stephens)
12 exs.
ガムシ *Hydrophilus acuminatus* (Motschulsky)
3 exs.
コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp)
1 ex.

トラップの発見場所は休耕田であるが、死骸は
そこに隣接するため池に生息していた個体のもの
と考えられる。トラップの設置者は不明、設置年
月日も不明である。



図 2. 大型水生甲虫類と(右上)小石 2 個。